THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

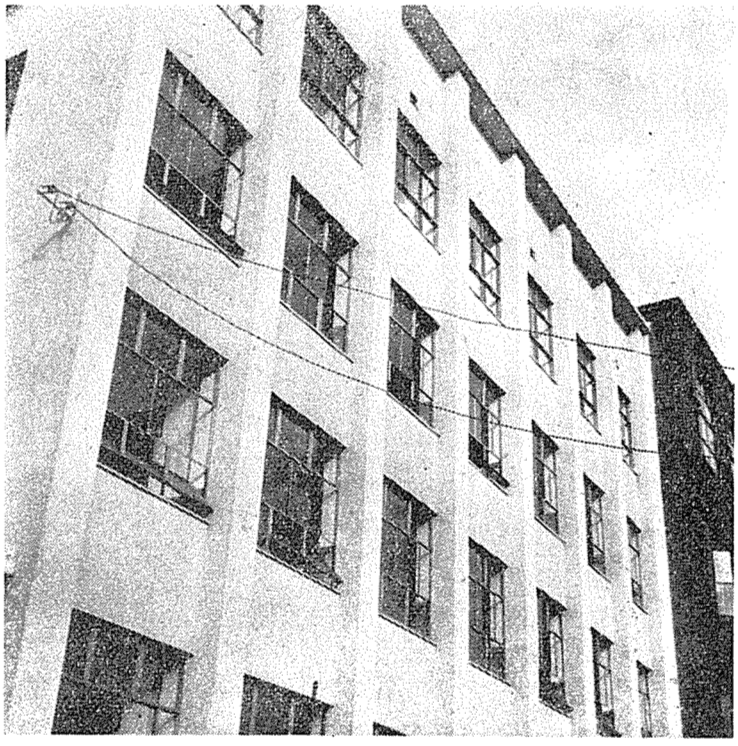
Osaka, December, 15th, 1953. No. 264

關西大學學報

第 2 6 4 号

昭和28年12月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
復刊第三四号（通巻第二六四号）
昭和二十八年十二月十五日発行（毎月一回十五日発行）



天六増築学舎

關西大學學報局

關西大學創立七十周年記念

拡充資金寄附募集に当つて

白川朋吉（理事長）

終戦後学制改革の際我が関西大学は、直ちに新制大学に組織更えを行い、また大学院を関西で最初に設置するなど、教育機関として名実共に完備した学園を形成し、日に新に発展の一路を辿つておりますことは、まことに御同慶の至りに堪えません。

伝統ある大学の教育政策を継承して、学問の発展と時代の進運とに即応する教学の実を更に飛躍的に挙げるためには、学部の充実、学生数の増大等に伴い従来の研究施設や学舎を増改築するの必要に迫られてまいりました。殊に創立七十周年を迎える明後年、発展せる関西大学を見てうたゝ感無量なものは唯に創立当時本学に学んだ私のみでなく、創立以来今日まで関西大学に学ばれた校友諸氏におかれても感を同じうせられるでありませう。こゝに大学は、本年よりこれら諸施設の拡充、整備を行うことにいたしました。

もとより昨年末校友諸氏の御推挙により就任いたしました理事長という重職にある私としましては、万策を講じて大学発展のため微力を傾倒いたしますが、何卒校友諸氏におかれましても、母校のため、明日の関西大学のため、能う限りの御援助と御尽力とを賜わりますよう御願いいたしたいと存じます。

久井忠雄（専務理事）

日本の完全独立に通ずる関西大学の実質的な飛躍的発展は日本人であり且専務理事である私の悲願であり、祈―喜願である。母校卒業後二十ケ年余何一つとして母校の為に尽した事のない私を専務理事の重職に推して戴いた数万の校友の事を思うとき私は異常の責任と非常の勇気を感ずる。知己の為に身を投げ出すは中外に通ずる道である。況んや私は校友である。私は私の後半生を母校に投げ出す光栄を担つた事に就て最上の喜びを感じている。　考えてみまするに我が母校の前途は多難である。特に大学の真価を決定づける教授陣営の質量の強化と教育研究の物的設備の拡充を同時に解決せなければならぬ点に多大の困難が横たわつている。然し是を同時に解決せなければ本学の発展はあり得ない。教授陣営の質量の強化は優秀教授の招聘。学外研究員の派遣。助手副手制度の拡充強化。研究費補助。図書の拡充整備等をその内容とし、教育研究の物的設備の拡充は天六校舎の増築、第一高等学校の移築、尚志館の増改築、研究室の増設、学生寮の増築、千里山校舎の大増築、図書館の増築等をその内容とし、尚此の両者を含めての重要問題である職員の待遇改善問題、更に校友と母校との心的連絡の根拠たる校友会館問題をその内容としている。而も是等は緊急を要するものであり、即ち浄財の喜捨に待つ所以である。健全なる本学の財政に三億円余の借金を加える事を考えるとき私は一面充分の成算と自信を有するものの、他面不眠の責任を感ずる。先づ魁より始めよ。私は微力を尽して校友諸先輩の御負託に応えるべく寄附の募集に全力を尽したいと思う。

矢野文雄（常務監事）

今般関西大学創立七十周年記念拡充計画に関する寄附金募集に際しましては、各位の絶大なる御支援御高配により多額の浄財の御寄附を賜わり、当局者一同深甚なる謝意と敬意を表する次第であります。

御蔭様で極めて順調なる足取りを以て建設工事も進捗しつゝあり、御寄附の状況も之亦極めて順調に成績をあげつゝありまして、関係者は感謝感激の極みであります。絶対の御信頼により御寄附を賜わりましたる以上之が使途につきましては特に注意を払い有効適切而も合理的に活用し一銭の無駄なく、苟も各位の御期待にそむくが如きことなき様関係者一同肝に銘じ慎重に且厳重なる監督のもとに運用致しますことを御誓ひ申し上げ、特に小職常務監事としての職責上この点を充分関係者に強調致しまして各位の御芳志にむくいたいと存じます。茲許謹んで御厚礼申し上げ今後一層の御支援を御願ひ致したいと存じます。

學長就任の辭

岩崎卯一

この度私は、長い歴史と栄ある伝統とを誇る教育財団関西大学によつて経営されている諸教育施設のうち、関西大学の大学院と四つの学部と短期大学部との教務全体を統理する第十三代の学長に、はからずも就任することになりました。一個の人間としても徳性に缺け、また一学究としても研究未熟な私が、七十年に近い間、一批の碩学や高徳の士によつて、つぎつぎに継承されて来たこの重い任に就く事は、省みて洵に慚愧に堪えないものがあります。とは言え、大学に於ける同僚教授全体から選び出され且つ理事会一致の承認を得て、この任に就きました以上は、倒れて後止むの覚悟を以て、乏しきを関西大学教務の発展に捧げたいと、固く決意している次第であります。

顧れば、関西大学の学長職に就くことは、私個人にとりまして、実は二度目であります。昭和二十二年の五月から二十五年の七月までの三ケ年間、私は第十一代の学長として、終戦後の多難な時期を迎へていた関西大学の教務を司宰いたしました。四学部の設置とか、短期大学部の設置とか、大学院の設置などと言うような、其の当時の時勢に応じた新計画に参劃いたしましたが、旧学部の廃止とか、大学予科の廃止とか、専門部の廃止とか、工業専門学校の廃止をも、涙をのみながら断行したのであります。今から追想しますれば、徒らに猪突盲進しました為に、幾多の失敗を残し、心中忸怩たるものがあります。ただ、前学長岡野留次郎博士の御努力に依つて、私の失敗の多くが是正されているのを見て、僅かに自らを慰めて来たのであります。今後は、明治十九年即ち六十八年前に、関西大学の前身である「関西法律学校」を創立された諸先覚者の遺訓だと思はれる「真理の究明と正義の擁護」を、大学学風の中核として遵奉し、この至上命令のためには生命をも賭けて悔いない気概と情熱とが、わが学園に漂うように、徴力をつくしたいと念願して居ります。もとよりローマは一日にしては成りません。然し大学の経営者と教授と学生との三者がかような目的をもつ母校の正しい発展という旗印の下で、一致協力の実を挙げますれば、関西大学の祖先から継承して来たこの尊い遺産を、より高いもの、より豊かなもの、より深いものとして、関西大学の子孫に譲り渡し得るかと信じます。私は、我が大学の礎石を築かれた児島惟謙先生、井上操先生、小倉久先生、手塚太郎先生その他の霊威に、躍進の一途を辿つている現在の関西大学の舵の取り方を誤らないよう祈願すると共に同僚教授諸賢の援助と学生諸君の協力を期待しつつ、重き使命の一端を果したいと希念して居ります。

（学長、法学博士）

學内報

新學長に岩崎教授

岡野留次郎前学長の病気退職による後任学長選挙は、十一月十八日の連合教授会（教授、助教授六十五名参集）で選挙の結果、再び岩崎卯一教授（法学部）が選ばれ、翌十九日の理事会において可決、任命された。

なお岩崎新学長は大正四年本学専門部卒、同九年米国コロンビア大学社会学部卒、同十年関西大学教授に就任以来、法文学部長、図書館長を歴任、戦後昭和二十一年法学博士の学位を授与され、同二十二年五月学長に就任、同二十五年退任後、法学部及び大学院教授として現在にいたる。

學長就任講演

岩崎学長は十二月十五日（火）午前千里山学舎法学部、文学部において、午後経済学部、商学部において、続いて同月十六日（水）天六学舎においてそれぞれ就任式及び就任講演を行つた。

演題の通り

法学部、文学部において

「政治的支配の型相」

経済学部、商学部において

「議会主義的政治の限界」

天六学舎において

「政治的支配の型相」

（なお学長就任講演は欧米各国の大学において慣例となつており、新任学長がその専攻分野における研究を披瀝するもので、中には学界に大きな影響を与へたものも少くない）

定例評議員会

十月十五日（木）定例評議員会を天六学舎で開き、昭和二十八年度補正予算の承認、借入金、寄附募集に関する諸案件を審議した。

出席者左の通り。

岩崎卯一　岩本公夫　今井康倉　今西庄次郎　池田信之助　春原源太郎　西尾専太郎　西村治三郎　西本寛一　戸根泰雄　織田佐代治　大石雄一郎　大小島真二　大島武夫　和田豊二　脇野徳三郎　桂忠雄　神屋敷民藏　樫本信雄　竹沢喜代治　内藤正剛　中谷敬譯　中務平吉　長柄金吾　浪江源治　村尾静男　宇佐美正祐　矢野文雄　矢口家治　保井剛一　松原藤由　江里口春志　明石三郎　沢村栄治　木原繁実　木村健助　水谷揆一　宮島綱男　白川朋吉　下条小野右衛門　平井三朗　久井忠雄　蒜川太郎　関豊馬　角田好太郎　鈴木祥藏

正井敬次氏 本學名譽教授に

前学長正井敬次氏を本学名誉教授に称号を授与することになり、十二月十七日付をもつて理事会で可決した。

なお同氏は昭和二十一年五月より同二十二年五月まで本学学長の職にあり、金融論専攻で経済学博士、現在本学大学院経済学研究科講師である。

日本私立大學連盟 理事会及常務理事会 本學で開催

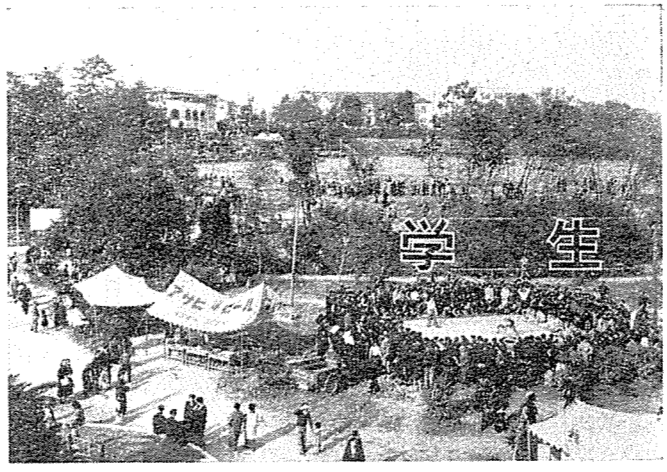
十月二十七日（火）私立大学連盟理事会及常務理事会（当日世話校関西支部長校本学）が、千里山大学ホールにおいて開かれた。参加十七校で、学術会議選挙、教育制度委員運営、共済組合法対策その他について審議。翌二十八日（水）には近畿日本鉄道の観光バスを貸切つて折から錦秋の大和路に紅葉を探つて夕刻散会した。

出　席（順序不同）

早稲田大学　慶応義塾大学　青山学院大学　中央大学　上智大学　明治大学　東京慈恵会医科大学　愛知大学　法政大学　日本大学　立教大学　東京女子大学　同志社大学　立命館大学　関西学院大学　大阪歯科大学　関西大学

欠　席

東京歯科大学



大學祭開く

大学祭は十一月七、八両日、例年より少し遅れたが、当日は珍らしい好天気に恵まれ、千里山に、若人の祭典を繰り展げた。第一日軟式野球短大優勝戦、関西六大学リーグ戦、硬式野球部の公開練習、その間南の空から航空部による祝賀飛行が行はれ、大学祭を祝う花束とメッセージの投下があり、日本の覇者ホッケー部が、入場、対大阪クラブとの間に一戦を交はし、次に拳法部が、正面のグランドで行つている一方、経商学舎では文化、学研各部による展示会が開催され、特に経商二十四教室で展かれていた兒島惟謙に関する種々の展示品は惟謙が、本学の創設者の一人として関係があるだけに、特に興味をひいた。

第二日、前日に続き素晴らしい好天に恵まれ朝から続々と観客が詰めかけ、硬式野球部による紅白試合、ソフトボール招待試合に続き、新しい試みとして、郷土色豊かな阿波踊りが行われ、この為に徳島より出て来た校友と在学生が一緒になり、鳴物入りで本場の踊りをグランド一杯に繰りひげたが、此の種各地の踊り等を大学祭当日、各地校友の後援を得て行つてはどうかという提案がされていた程である。引続き市大、浪大の参加を得て、馬術大会、障碍飛越競技、ラグビー招待試合の後、体育三十五部がスポーツ行進を行い、薄暗くなつて来たグランドに、応援団の乱舞と共に、二日間に渉つた大学祭の熱情をかきたてながら、若人の祭典の幕を閉じた。

校友

校友会常議員会

第二回校友会常議員会は九月廿六日天六学舎校友課附属室に於て開催、出席者十四名。

新任三好万治副会長の挨拶あり、長柄副会長の司会にて、左の事項を附議した

一、常議員業務分担の件
二、会則改正の件
三、地方支部助成の件
四、校友会入会式挙行可否の件
五、校友会バッチ制定の件
六、願問を置くの件

議案第一号に付ては分担制をとらず、必要の都度委員を選出し、其の小委員会に委嘱することとなつたが、第二号より第六号に至る議案に付ては、左記七氏に委員を委嘱し研究することとなつた。

梅原貞次郎　大島　武夫　神屋敬民蔵
佐伯　五郎　角田好太郎　三島　律夫
安井　章吾

尚、校友会館の件に付、評議員会クラブ設置委員長の樫本信雄氏より其の現況報告があつた。当日出席者は左の通りである。

会長代理　木村　健助
梅原貞次郎　大島　武夫　神屋敬民蔵
河内　兼三　樫本　信雄　桂　忠雄
角田好太郎　中務　平吉　長柄　金吾
久井　忠雄　前田　軍治　三好　万治
安井　章吾

第三回校友会常議員会は十月十九日、天六学舎校友課附属室に於て開催、出席者十八名。

三好副会長の司会にて左の事項を附議した。

先づ三島委員から下記日程を以て行はれた、会則改正等審議委員会（第一回、十月二日・第二回、十月九日・第三回、十月十九日）に於ける審議の経過報告を詳細になした。

次に会則改正等審議委員会の会則条文案に付、活潑な意見の交換あり、校友会バッチに付ては慎重を期し、諸図案を勘案検討して数箇の物を試作し、次回常議員会の批判にかけることに決定した。

又、校友会費の件に付ては、学友会と密接な連繋をとる為、其の接渉委員として委員が挙げられ、正・副会長及び校友課長は之に随意参加することになつた。

学友会に対する接渉委員は三氏である。

寒川　喜一　佐伯　五郎　寺西　武

当日出席者は左の通りである。

会長代理　木村　健助
岡部　甚吉　梅原貞次郎　大石雄一郎
大島　武夫　神屋敬民蔵　河内　兼三
佐伯　五郎　角田好太郎　寺西　武
中務　平吉　長沢　健一　長柄　金吾
久井　忠雄　前田　軍治　三島　律夫
三好　万治　安井　章吾

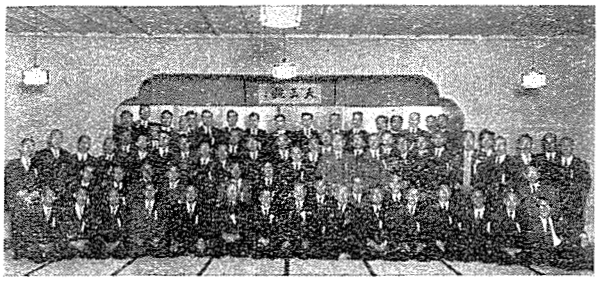
大阪支部秋季総会

大阪支部秋季総会は十一月廿七日（金）午後五時から天王寺公園北口の「天王殿」で開催した。

当日は出席者も七十三名の多数にのぼり盛会であつた。支部長、副支部長の任期満了に伴う役員改選に付いては九名の詮衡委員を選び詮衡された処、その結果いづれも重任となつた。尚幹事の任命は支部長一任となつた。

出席者氏名

（学校側）白川朋吉　久井忠雄　矢野文雄



大阪支部秋季総会

岡部甚吉　安藤一郎　伊藤秀一　石原孫市　池谷
亀太郎　梅原貞次郎　海野円城　江里口善志　榎
本昭　岡本重治　大石雄一郎　大月仲　大島武夫
逢坂勝見　尾崎信夫　河内兼三　樫本信雄　神屋
敬民蔵　神吉等　柏原好郎　加納藤右衛門　金田
雅一　喜多芳明　木村栢太郎　北原元茂　小林親
近藤友房　坂本龍夫　下条小野右衛門　白井誠
島良司　関豊馬　段林作太郎　田中一郎　竹沢喜
代治　谷口宗一　多賀谷宏　富田貞男　富永竹夫
頓戸勇　中谷政男　中村公男　中塚正信　長柄金
吾　中務平吉　中沢俊雄　永沢重蔵　内藤盛雄
西村治三郎　西尾尊太郎　西谷鐸久　橋田豊吉
浜口弘　平田奈良太郎　平井三朗　久田一栄　前
田軍治　松本芳太郎　南清　三好万次　宮崎幸市
三木甚太郎　山崎敬義　柳田栄次　山根滝蔵　八
木万太郎　大和英雄　吉村種蔵　横田長次郎

昭和二十八年十二月十五日発行
關西大學學報　第二六四號
編集兼発行人　大阪市大淀区長柄中通二丁目一二番地　久井忠雄
印刷所　大阪市北区川崎町三八　株式会社ナニワ印刷所　電話堀川（七三〇）二番　（三一九三）番
発行所　大阪市大淀区長柄中通二丁目　關西大學學報局　電話堀川（35）一七五六番　振替大阪二六七七二番
一年誌代実費三〇〇円（送料共）

關西大學擴充資金募集要項

一、予定金額　金五千万円
一、一口　金壹千円以上
一、御送金は銀行振込用紙を以て全國の左記関西大学取引銀行本・支店へ、或は振替貯金（大阪壹貳八七五番）又は御便利な方法で関西大学会計課宛御願い致します。
神戸銀行梅田支店・三和銀行天六支店・住友銀行天六支店・住友信託銀行本店
泉州銀行大阪支店・大和銀行天六支店・帝国銀行天六支店・日本勧業銀行梅田支店・安田信託銀行大阪支店（送金先銀行五十音順）
一、〆切期日は一応昭和二十九年十月七日と予定致します。
一、寄附者の氏名は、関西大学学報誌上に順次発表致します。

關西大學擴充資金募集は大藏大臣の承認した指定寄附金であります

今回大蔵大臣より左記写の通り、本学拡充資金募集の寄附金について、法人税法第九条第三項但書の規定に該当する寄附金としての承認を受けました。普通の寄附金であると、法人税法第九条第三項本文によつて、法定限度を超過した場合、その超過額はその法人の損金に算入されないから、法人所得に加算の上、課税を受けることになるのですが、本学の募集する寄附金は法人税法第九条第三項但書の「指定寄附金」の承認を受けているので、寄附者である会社その他の法人は、その寄附金については金額の如何に拘らず、これを損金として認められますから税金の対象にはならないのです。この指定寄附金は昭和二十五年大蔵省告示第五一〇号第三号昭和二十六年大蔵省告示第五五二号に該当するもので左の通りになつています。

「学校教育法第一条に規定する大学、高等学校、中学校又は小学校の敷地、校舎その他附属設備を施設する為に学校法人又は民法による財團法人に対してなす寄附でこれ等の法人が寄附金の募集について大藏大臣の承認を受けた日から一年以内に支出されたものゝ金額」

近頃各種の寄附金募集が多いのですが、折角好意ある御寄附をした会社は、これを損金として経理処理しているのを、税務署で損金否認して利益加算し課税を受ける例は多いのですが、本学のは前述の如く大蔵大臣の承認した「指定寄附金」でありますから、損金を否認される心配はありません。何うぞこの点、特に御理解を賜りとう存じます。

（寫）　蔵税第一八五〇号
昭和二十八年十月八日
学校法人　関西大学
理事長　白川　朋吉殿
大蔵大臣　小笠原三九郎

昭和二十八年九月二十二日附で願出があつた寄附金については法人税法第九条第三項但書の規定に該当する寄附金として承認する。

寄附募集についての質疑に答う

久井　忠雄（専務理事）

十二月二十一日寄附金に関する懇談会（職域同期会）を母校天六学舎で開催いたしました時、御熱心に御質疑戴きました点を御参考迄に御報告いたします。

質問

一、芳名録は場合により記入の重復、例えば同期生として且職域校友として又は校友会支部所属員として重復する場合があると思うが如何。
二、芳名録に記入した金額に対する集金は其の会の責任者に於て義務付けられるか。
三、寄附の勧誘又は集金に当つて交通費集会費等の実費が必要である、いかがするか。
四、集金する場合、身分証明書が必要ではないか。
五、寄附金は一ヶ年内に收めねばならぬか。
六、法人以外の免税は不可能か。
七、寄附金は校友のみに限るか。

答

一、各芳名録に同一金額を記入戴いても差支ありません、但し其旨を附記願います。
二、義務と云う事は絶対ありませんが其の会としても有終の美を飾る為、出来る限り一括御集金の御盡力を願い、尚未納の方には学校側としても関係方面と連絡の上、御集金させて戴きます。
三、その実費は実收寄附金額の一割以内であれば学校側に於て負担させて戴きます。
四、御申出の向には身分証明書を発行致します。
五、出来る限りそうして戴きたいと存じますが多額に集める心要上又止むを得ない場合は昭和卅年の十月迄でも結構です。只法人の免税は昭和廿九年十月七日で御座いますから為念。
六、許可は法人のみですが個人の場合、所得税の申告の際、必要経費の中に含めて戴いて税務署と御交渉願つてはと存じます。
七、限りません。出来れば教育に関心の深い篤志家又は貴台と関係の深い校友の外友人等御勧誘願へればと存じます

感謝録

別項記載の通り、母校創立七十周年拡充資金寄附を募集致しました処、その趣旨に御賛同下さいまして陸続左記の通り御寄附をいただきました。十一月三十日迄に拝受しました御寄附者の芳名を、爰に録し、謹んで感謝の意を表します。

昭和二十八年十二月

学校法人　關西大學

關西大學七十周年記念拡充資金寄附者芳名（一）

昭和二十八年十一月三十日現在（順序不同、敬称略）

金百萬円也　久大紡績株式会社

金百萬円也　株式会社竹中工務店

金五拾萬円也　昭六会（内訳は次号に掲載します）

金五拾萬円也　吉本興業株式会社

金五拾萬円也　近畿電気工事株式会社

金貳拾五萬円也　株式会社大阪城口研究所

金拾萬円也　大和銀行天六支店

金拾萬円也　日本勧業銀行梅田支店

金貳拾參萬円也　十期会

内訳

金拾万円也　野間秀泉
金式万円也　福岡彰郎
金壱万円也　江里口春志
金壱万円也　河内兼三
金壱万円也　田中寿蔵
金壱万円也　竹沢喜代治
金壱万円也　塚本義昭
金壱万円也　東稔頼義
金壱万円也　長谷川清一
金壱万円也　松谷連哉
金壱万円也　森下義雄
金壱万円也　柳田栄次
金壱万円也　山中輝司
金壱万五千円也　松村源次郎（昭2専法）
金壱萬円也　寺浦留三郎（昭10大法）
金壱萬円也　藤原龍太（推薦）
金七千五百円也　有賀司郎（昭6大経）
金七千五百円也　中村定二（昭16専二法）
金参千円也　鈴木八郎（在学生父兄）
金式千円也　竹内勤（大15専法）
金式千円也　松嶋章（昭21大経）
金式千円也　井野仙周（在学生父兄）
金式千円也　今井三次郎（在学生父兄）
金壱千円也　安西一郎（昭25学一国）
金壱千円也　因野昭（昭22専二商）
金壱千円也　北村学（昭14専二国）
金壱千円也　石丸豐（大9専商）
金壱千円也　小島龍夫（昭26学一国）
金壱千円也　大越務（明37法）
金壱千円也　広橋正一（昭26学一法）
金壱千円也　深田丈夫（昭14大法）
金壱千円也　松川孟一（大11専法）
金壱千円也　吉村種蔵（明30法）
金壱千円也　和田信蔵（昭8大法）
金壱千円也　高林鳳（昭25学一法）
金壱千円也　高橋文恵（昭8専二法）
金壱千円也　小田静男（昭16臨専二法）
金壱千円也　原田市之進（明39法）
金壱千円也　不動健治（大9大商）
金壱千円也　村岡道久（昭18専二法）
金壱千円也　野口茂樹（昭4大法）
金壱千円也　吉田孝蔵（昭27学二法）
金壱千円也　辻本德充（在学生父兄）
金壱千円也　春名卓次郎（在学生父兄）
金壱千円也　藤井貞朝（在学生父兄）
金壱千円也　坊岡敏郎（在学生父兄）
金壱千円也　鍛治トク（在在生父兄）
金壱千円也　上農市三郎（在学生父兄）
金壱千円也　要房行（在学生父兄）
金壱千円也　野瀬潔（在学生父兄）
金壱千円也　江南留吉（在学生父兄）
金壱千円也　増田金一（在学生父兄）
金壱千円也　竹原金吾（在学生父兄）
金壱千円也　木村十三德（在学生父兄）

金拾萬円也　岩崎卯一（理事長）
金拾萬円也　白川朋吉（理事長）
金拾萬円也　久井忠雄（専務理事）
金四萬円也　矢野文雄（常務監事）
金貳萬円也　宇佐美正祐（理事）
金貳萬円也　木村健助（理事）
金貳萬円也　西本寛一（理事）
金貳萬円也　春原源太郎（理事）
金貳萬円也　宮島綱男（理事）
金貳萬円也　森川太郎（理事）
金貳萬円也　西村治三郎（監事）
金貳萬円也　西尾專太郎（監事）

集計金四百七拾七萬貳千円也

（尚同日以降の分は次号に掲載します）

関西大学創立七十周年記念
拡充資金募集趣意書

わが関西大学は、明治十九年河内町の一隅に、大阪に於ける唯一の法律学校として開校したのでありますが、爾来六十有余年校友先輩の苦心と不断の努力に依つて目覚ましい発展を遂げ、今や一万数千の学徒を擁する私学の雄として、自他共に許す一大学園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、国家社会の進運に大きな寄与をなし得たことは、われわれの深く喜びとするところであります。学園発展のために尽瘁せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く独立国家として出発しましたが、国家の前途は甚だ多難であります。わが国は今後、文化国家として世界文化に貢献すべきであります、またそれによつて友邦の信に応えなければなりませんが、そのためには、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本校は、大学の崇高な使命を自覚すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその声価を揚げて参りましたが、真理の討究、学の実化という理想に向つて、益々邁進したいと思います。本学が新学制に基き、各大学にさきがけて、大学院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において将来の飛躍的な発展を意図したからに外なりません。

本学は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計画を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大学院、大学ホール、経済学部商学部教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計画中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山法学部文学部学舎の改築、二部学生を収容するための天六学舎の増築、学生に対する施設の一部として、千里山尚志館（学生食堂学友会部室）の増改築等でありますが、これらは逐次工事に着手し或は着工準備中でありますが、その大部分は、臨時的なもので、更に近代的設備を持つ研究室の新築を構想中であります。これらが竣工の暁には学園は全く面目を一新すると思います。

こうした外観の整備と相俟つて、特に重要なものは、大学の真価を決する教授陣容の充実であります。二十八会計年度においては教授十名、助教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員の待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相当額の増俸を実施致しました。しかしなお現下の経済状態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。

教授陣容の充実と共に、研究用図書の完備も大切でありますが、この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するもののみと考えられますが就中、学舎の増改築は、最早一日も遷延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するのでありますが、戦後の経済的混乱により本大学法人の経理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず関係者各位その他の御援助により御醵出を仰がねばならぬ実情にあります。

大学の生命は不朽でありますが、学園の生々発展を希うためには、各位の学園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、学園の繁栄を念願する各位の御賛同を請い、この七十周年記念事業の完成を期したいと思います。各位の御賛同により本事業完成の暁には、学園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な発展を期し得ることを信じます。何卒御協力の程切に願上げます。

昭和二十八年十一月

関西大学学長　岩崎卯一
関西大学理事長　白川朋吉

創立七十周年記念事業学舎増改築概要

一、工事費総額約三億三千五百万円

二、工事概要

(一) 千里山法学部文学部学舎改築（鉄筋コンクリート造）
三階建　二千六百六十八坪　工費約二億六千四百万円

(二) 天六学舎増築（鉄筋コンクリート造）
五階建　三百七十八坪　工費約三千万円

(三) 千里山尚志館増改築（木造）二階建　三百二十一坪　工費約六百万円

(四) 関西大学第一高等学校の千里山外苑への移転新築（一・二階鉄筋三階木造）三階建　七百八十五坪　工費約三千五百万円